

2021年度 後期始業式

聖書 コヘレトの言葉 12章1節a (旧約聖書 1047頁)

青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。

瞬間

パンデミックが起きて、2回目の夏が終わろうとしています。いまだに収束が見えず、新しく変異したウイルスは感染力が強く、ワクチン接種後の人も感染しています。とても残念でしたが夏休みを延長し、本日からオンラインで始業式、明日から授業となります。今後も学校行事の中止、延期、自粛など残念な変更も想定されますが、感染状況を見ながら時差通学や分散登校、短縮授業、また登校日などを設けて、なるべく早く再会の機会を迎え、皆さんの声が響く英和女学院であればと願っています。

さて感染症と猛暑という厳しい環境にありますが、季節は少しずつ夏から秋の実りの季節へと変わっています。そして英和生皆さんも心身共に成長し、後期は進級、卒業、進学へ向けて旅立ちの季節へと向かいます。今後も厳しい環境が予想されますが、後期始業にあたりひと言皆さんにエールを送りたいと思います。

実は、今、詳しくはお話できませんが、今年の夏、特に前半は嬉しいこと、楽しいこと、有意義な経験をさせて頂きました。その中で一つだけささやかな出来事をお話します。

それは以前見逃したハンドラに再会したことです。数年前の初放送の時は初回を観ただけで単純な恋バナかと勝手に思って観なかったのですが、今回はあっという間、それも次の回が待てず、動画コンテンツで一気に観てしまいました。ご存じの方もいらっしゃると思います。『十八の瞬間』という青春ドラマです。もう内容は言いませんが、タイトルの通り、高校2年生の学校や家庭でのひとつ一つの瞬間が静かに、切なく、高校生たちが屈折しながらも、困難にひたむきに向き合う姿が描かれています。

そしてもう一つ思い出したのが、佐藤多佳子さんの『一瞬の風になれ』

という本です。読んだのはもう十年以上前ですが漫画やドラマになり、文学賞も受賞したのでご存じの方もいるでしょう。陸上の「4継」(4×100 mリレー)に同級生や後輩と共に青春を燃やす男子高校生の物語です。長編ですが気がついたら終わってしまい、もっと先が読みたいとロス(寂しさ)を感じた本です。

先ほど拝読された「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ」という聖書の言葉は旧約聖書の『コヘレトの言葉』の中にあります。

実は、この時代、旧約聖書の古代イスラエル人は神様を見失っていました。大国に侵略され国を失い、先祖からの土地を奪われ、遠い異国へ連れ去られ、多くの民はそこでこの世を去りました。土地や財産だけでなく、言葉も文字も文化そのものまでも奪われたのでした。「神様は死んだのではないか」「神様はいなのではないか」という絶望感に沈んでいたのです。彼らの中には嘆きながら、いつまでも過去の栄光にしがみつき生きる気力を失った者や安易な慰めに期待し夢ばかりを追う者もいました。

ところが、このコヘレトと呼ばれる人は「一切は空である」と言いました。この「空」とは「束の間」という意味です。束の間とは「瞬間」「一瞬」という意味です。それは私たちには次の瞬間に起こること、一瞬のこともわからないけれども、すべての事には意味がある。神様が私たちに大切なもの、必要なものを与えておられるという信頼があるのです。

人生で何を失った、何を得たではなく、時が良くても悪くても、神様が今、私に、私たちに何を与えて下さっているのかその瞬間、一瞬の意味を求め続けることが大切です。それが今、わからなくてもいいのです。信頼して求め続けることが大切です。その意味はひたむきに祈り歩みながら、赦され生かされていることに気づかされ知るのでした。

しばらく黙祷しましょう。

祈禱 祈りましょう

わたしたちを愛し、わたしたちを励まされる主よ。

あなたは時が良くても悪くても、いつも必要なもの、大切なものを与えて下さいます。どうか後期の学びを通して、心身共に成長し、喜びと感謝を持って新たな学びへと導き、旅立たせて下さい。

今、後期の学びを始めるにあたり、世界の平和と平安のために祈ります。アフ

ガニスタンでは20年間に及ぶアメリカ軍の駐留が終わりましたが、再び政情が不安となり50万人以上の難民が取り残されています。またアメリカ、カリフォルニア北部では異常気象により東京23区より大きな面積に山火事が広がり焼失しています。今年の夏、国連は初めて「(こうした異常気象は) 人間の影響がなければ起きなかった」と発表しました。戦争だけでなく、自然災害も、感染症が広がるパンデミックも含め、それらはわたしたち人間が起こした人災です。どうか、わたしたちの学びと生活を通してこれまでの私たちの歩みをふりかえり、祈り覚えて、忘れずに考え続け、与えられている恵みと導きの一瞬、瞬間を感じられるようにして下さい。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン